

目次

第1章	共同研究「科学と社会」について ☆ 平田光司 ☆	1
1.1	この共同研究の目的	1
1.2	2000年度の活動	3
1.3	本論文集「科学と社会2000」	4
第2章	地震と火山噴火予知の研究者の役割 ☆ 神沼克伊 ☆	7
2.1	はしがき	7
2.2	地震・火山と研究者の役割	8
2.3	研究成果の発表の場	9
2.4	有珠山の噴火活動	11
2.5	三宅島の噴火活動	13
2.6	問題点のまとめ	16
2.7	討論	20
第3章	社会で求められるエビデンスの要件 ☆ 柳本武美 ☆	27
3.1	序	28

3.2	エビデンスを求める社会	29
3.3	質の高いエビデンス	31
3.4	確認的推論と探索的推論	34
3.5	求められるエビデンス	36
第4章	シミュレーションと科学 ☆ 平田光司 ☆	43
4.1	はじめに	43
4.2	SSC 加速器	44
4.3	加速器ビームのカオス	46
4.4	CDR の政治的性格	50
4.5	シミュレーション倫理	53
第5章	エネルギー開発における認識論的転換 ☆ 井口春和 ☆	59
5.1	石油危機とエネルギー資源論	60
5.2	地球環境危機をもたらす新しいエネルギー問題	62
5.3	エネルギー開発の新しい流れ	65
5.4	原子力エネルギーの光と影	67
5.5	核融合研究体制の変遷	70
5.6	核融合研究者の反省すべきこと	73
5.7	人々が選択するエネルギーと地球環境	75
5.8	付録：プラズマ・核融合学会誌 73 巻 7 号 (1997) 編集後記 より	76

第6章	核融合研究の社会的基盤 ☆ 笹尾真実 ☆	81
第7章	天文学と社会 ☆ 磯部瑠三 ☆	87
7.1	人々の天文への関心度	87
7.2	理性における天文学と感性における天文学	89
7.3	巨大科学となった天文学	91
7.4	社会に役立つ天文学	95
7.5	学校教育で扱う天文学	97
第8章	科学の新しいパラダイム ☆ 永山國昭 ☆	105
8.1	何故「科学と社会」の共同研究に参加したか	105
8.2	イデオロギーとしての科学	107
8.3	科学の進化	108
8.4	見えざる科学の危機	109
8.5	新科学論	114
8.6	学術=知の再編	115
第9章	科学・技術に対する意識の国際比較 ☆ 鄭 躍軍 ☆	121
9.1	はじめに	121
9.2	日本における過去50年間の科学文明観の時系列変化	123
9.3	科学・技術に関する意識の国際比較	126
9.4	マクロ分析の視点から見た科学文明観	141

第 10 章	理科離れと国立天文台の対応	☆ 縣 秀彦 ☆	149
10.1	日本の理科教育の現状		149
10.2	先行的な事例の紹介		156
10.3	国立天文台の今までの取り組み		158
10.4	理科教育の発展に向けて		159
10.5	学校という枠を超えた教育活動の事例－HOUの活動－		160
10.6	国立天文台のこれからの取り組み		163
10.7	まとめ		169
第 11 章	科学ジャーナリズムを取り巻く状況	☆ 保坂直紀 ☆	173
11.1	はじめに		173
11.2	新聞の科学記事はどのくらい読まれているか		174
11.3	どんな科学ニュースがどのように載るか		175
11.4	「世間の関心」と「わかりやすさ」		178
11.5	「両論併記」の問題点		179
11.6	新聞の役割は「教育」ではない		180
11.7	科学者と科学記者との戦い		181
11.8	記者側の問題点		187
11.9	科学ジャーナリズムに救いはあるのか		189
第 12 章	科学知識の普及	☆ 高岩義信 ☆	193
12.1	はじめに		193

12.2	科学のコンテクスト		197
12.3	科学の社会による制御		201
12.4	一般の科学理解		205
12.5	科学と民主主義		218
12.6	まとめ		227
第 13 章	倫理学とはどんな学問か	☆ 柴崎文一 ☆	231
13.1	はじめに－科学・社会・倫理－		231
13.2	「哲学」と「倫理学」		232
13.3	アリストテレスは倫理学書を独立した書物としては書いていない		234
13.4	アリストテレスの『政治学』は、いわゆる「政治学」ではない		235
13.5	アリストテレス実践学の根本課題－善と幸福－		237
13.6	「知性的徳」と「倫理的徳」		238
13.7	「倫理的徳」は習慣から生まれる		239
13.8	ポリスとロゴス		240
13.9	小括		242
第 14 章	生命倫理の最近の話題	☆ 中川尚子 ☆	245
14.1	はじめに		245
14.2	ヒトゲノム解析計画と生命倫理		246
14.3	生殖技術と生命倫理		247

14.4	遺伝子・生殖技術に対する各国の制度・対応	249
14.5	ヒト・クローン	251
第 15 章	STS とは何か—その理念と実際 ☆ 中島秀人 ☆	255
15.1	回顧日本の STS 事始め	255
15.2	STS とは何か	258
15.3	STS の時事問題	259
15.4	おわりに	261
第 16 章	化学物質のリスク問題と STS 研究 ☆ 中島貴子 ☆	265
16.1	はじめに	265
16.2	化学物質のリスク問題に関する STS 研究の具体例	266
16.3	化学物質のリスク問題に関する STS 研究の必要性和可能性	274